

一般社団法人関西サッカーリーグ

10年以上にわたりチームと審判員の相互リスペクトを推進。勇退審判員への感謝セレモニーや育成年代チームとの交流機会を創出し、審判員を尊重する文化を醸成。監督・選手による審判員への労いや感謝の行動が広がり、チーム独自の感謝を伝える取り組みに発展している。

取り組み内容

実施期間：関西サッカーリーグ開催期間（4月～12月）

実施場所：関西エリア各会場

取組内容：

- ①勇退される審判員へ感謝の意を込めたサプライズセレモニーを実施（関西サッカーリーグカップ3位決定戦 2025.12.20 ヤンマーフィールド長居）
- ②2023年より育成年代（U18）に関西リーグカテゴリーの技術と審判員へのリスペクト行動を体感してもらうため、関西サッカーリーグカップに関西クラブユースサッカー連盟 U-18 所属の2チームを招待。
- ③リスペクトの輪がリーグに広がる（2026年4月～6月）・チーム独自（Cento Cuori HARIMA）でサンキューレフリーキャンペーンを実施・試合終了後、監督・選手から審判員へ感謝と労いを表す行動が広がる

リスペクトであると思う理由：

関西サッカーリーグはJFA機構でいうとJ1から数えて5部～6部相当。審判員は2級審判員が担当している。チームはJFL昇格を目指し、また、審判員は1級審判員昇格を目指すカテゴリー。リーグとして「チーム、審判員が互いにリスペクトしつつステップアップする」という全体の意識を合わすため、2015年以降10年以上にわたり、チーム代表者、関西FA審判委員会代表者を招き、コンベンションを開催している。

また、リーグ担当審判員勇退セレモニーの実施や全国で初となる関西クラブユース連盟との種別間交流等、折に触れ「審判員をリスペクトする文化を築く」ことをチーム全体に訴求してきた。結果、厳しい戦いの中でも、所属チームの監督、選手が自発的に審判員を労い、また、チーム独自で審判員に「有難う」を表す取り組みが広がってきている。



勇退サプライズセレモニーで感極まる審判員



チームが審判員をRespect